

## 第3回寒河江市立中学校部活動の地域移行に関する検討会議

### A グループ協議

- ・情報は兄弟から小学校に広まっている。
  - ・この10月に県でも方針が定まった。
- ① 具体的な場について
- ・小学6年生の保護者会で広める。
  - ・さくら連絡網の活用。
  - ・学校の教室で生徒に説明（先生や教育委員会が）。
  - ・市報を活用。
- ② 留意点
- ・絵で分かりやすく。
  - ・関係団体から人を呼んで説明。
  - ・活動時間について文科系などと合わない場合がある。
  - ・活動内容について既存の活動内容から変わることが考えられるため、参加者の理解が必要。

### B グループ協議

- ① どのように伝えていくか。
- ・受け皿となるスポーツ団体と保護者学校それぞれの立場の違いによる伝え方の違い。受け皿は「やれるのかという不安」がある。保護者は国の制度等により淡々と説明すれば伝わる。
  - ・練習、大会は今後どうなっていくのかという不安。目標（中体連）それ自体がどうなるのか。例えば土日のクラブ活動となる場合に PTA 総会などで説明（落とし込んでいく）が必要である。
  - ・平日と土日の活動の形態が変わると指導の違い(統一していく必要性)も出てくる。レギュラーの選定の方法など。
  - ・生徒が（平日も土日も）いつも一緒の仲間との活動ではなくなる。別の枠組みとなる。
  - ・土日の活動の多様性（違うことができる）が出る。そっくり土日を地域に移行するのは、強制ではない。楽しみが広がる場（機会）（例）キャンプや文化活動など。
  - ・指導者の負担や質がどうのという観点とは違う（R8 から土日はなくなってい

く)。古い感覚だと、「土日も部活動は当たり前」となっている。

それを、「土日の部活動は無いのが当たり前」に定着させていく。

- 競技力向上は別のクラブ（枠組み）に活動の場（所属）を変えている。人や種目も多くなってきているが、そのような形態だと認識する必要がある。
- 選択肢が少なかったために、好きなことができない例、負担が大きかった例などが改善される。メリットを含めて周知を図る。
- （受け皿として）活動の形態も様々であるため、土日をそっくり受ける形はハードルが高くなるが、個々の活動の場に、個々の判断で参加するような形であれば、ハードルも低くなる。

※陵西中学校のバレーボールの大人から中高生の参加の例有り。指導者の負担も小さくなる（優秀な指導・結果でなく）

- 中体連他各大会の整理。結果を求める部分も大切。どんな子どもを育てるのか、子どもたちの選択肢を広げることも大切。
- 土日に活動をしている団体がすべてではないので、受け入れてもらえるのか。土日は団体へ移行となるとハードルが高すぎる。
- 楽しみでやっているところに、頑張るような子が来たりするのはどうか。優勝目指すなどと考えで来られれば無理。
- 商売としてやっているのでは無理。
- ハードルを低くしてほしい、受け皿としては。
- 土日はフリー。自分のやっている種目。
- 大会参加とは別。学校単位でしか出れない。1人が出れるのは1種目。
- どのように伝えていくか。聞く側はどのようなことを聞きたいのか。
- 保護者や団体へ国の制度を説明するだけでいいのか。
- 団体は受ける側でやれと言われて受け入れられるのか。
- 大会はどうなるのか、それに向けて土日の練習はどうなるのか（チームとして）  
（中体連）メンバーが変わってくる
- PTA 総会での説明 → 子どもたち → 部単位  
学校単位、部単位ではない。 目的の理解が必要。
- 土日の活動と部活の一致ができるか。部活動ではない。やっている活動が違う。土日やる意味があるのか。※部活動が地域に移行するのではない。平日の部活から自分の好きなことができるように。
- 部活の任意と選択する種目を提示する。土日は自分の好きな種目をやっていいことを伝える。